

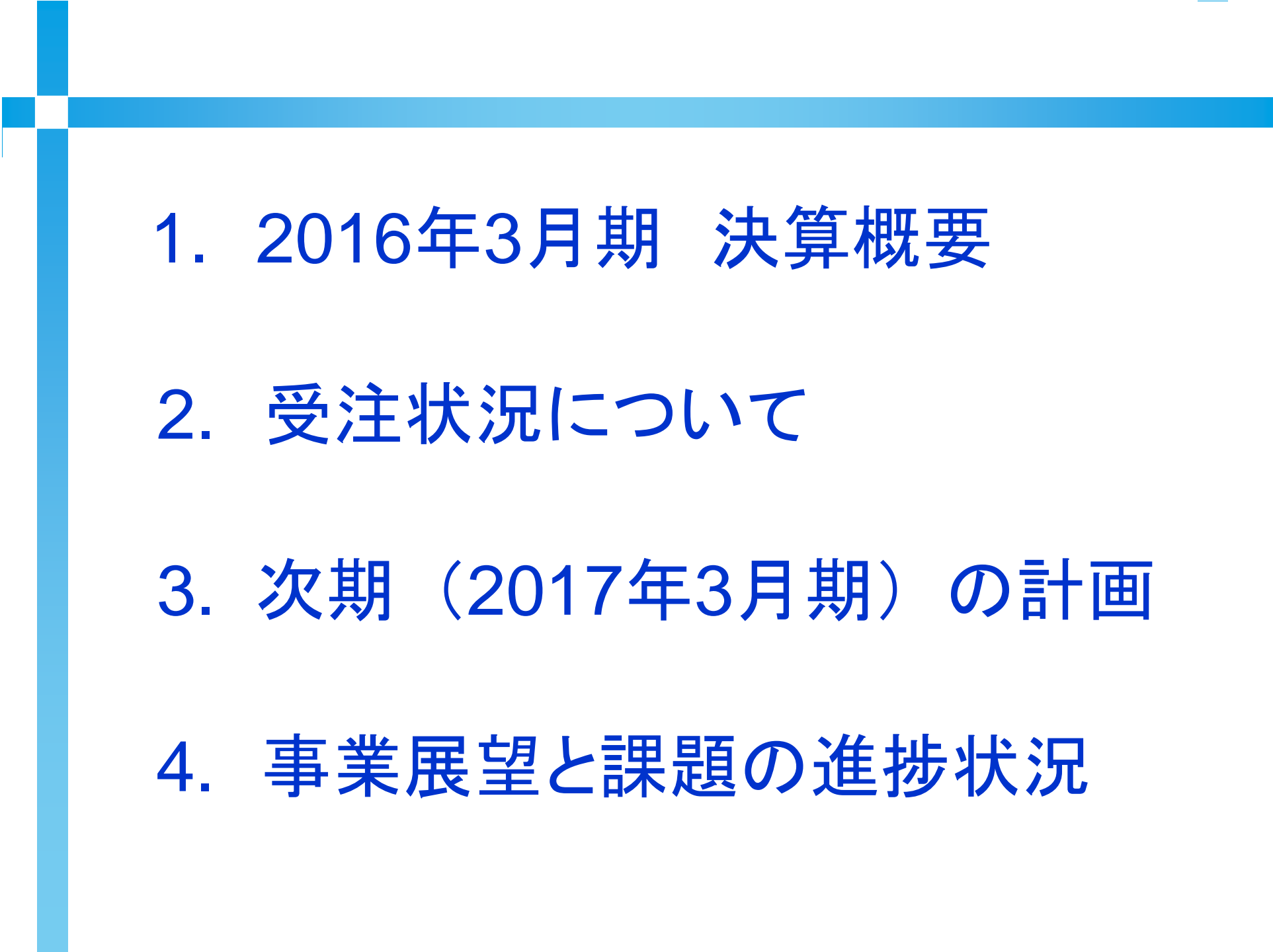
[証券コード:2176]



2016年3月期 決算説明会

2016年5月30日（月）

代表取締役社長 中川 賢司

- 
1. 2016年3月期 決算概要
 2. 受注状況について
 3. 次期（2017年3月期）の計画
 4. 事業展望と課題の進捗状況

A decorative blue L-shaped bar is positioned on the left side of the slide, consisting of a vertical bar and a horizontal bar that meet at a white square at their intersection.

1. 2016年3月期 決算概要

2016年3月期 連結業績(前期との比較)

Ina Research Inc.

(単位：百万円)

	前期	2016年3月期	対前期	
	2014年4月-2015年3月	2015年4月-2016年3月	金額	前年同期比
売上高	2,994	2,116	△877	△29.3%
売上総利益	611	362	△249	△40.7%
販売管理費	564	569	+5	+1.0%
営業利益	47	△207	△254	—
経常利益	32	△230	△262	—
当期純利益	8	△1,204	△1,212	—

期初予想との対比

(単位：百万円)

	2015/5/15 発表 期初予想	2016年3月期	対予想	
	2015年4月-2016年3月	2015年4月-2016年3月	増減額	増減率
売上高	2,230	2,116	△114	△5.1%
営業利益	42	△207	△249	—
経常利益	13	△230	△243	—
当期純利益	7	△1,204	△1,211	—

セグメント別 連結業績(前期との比較)

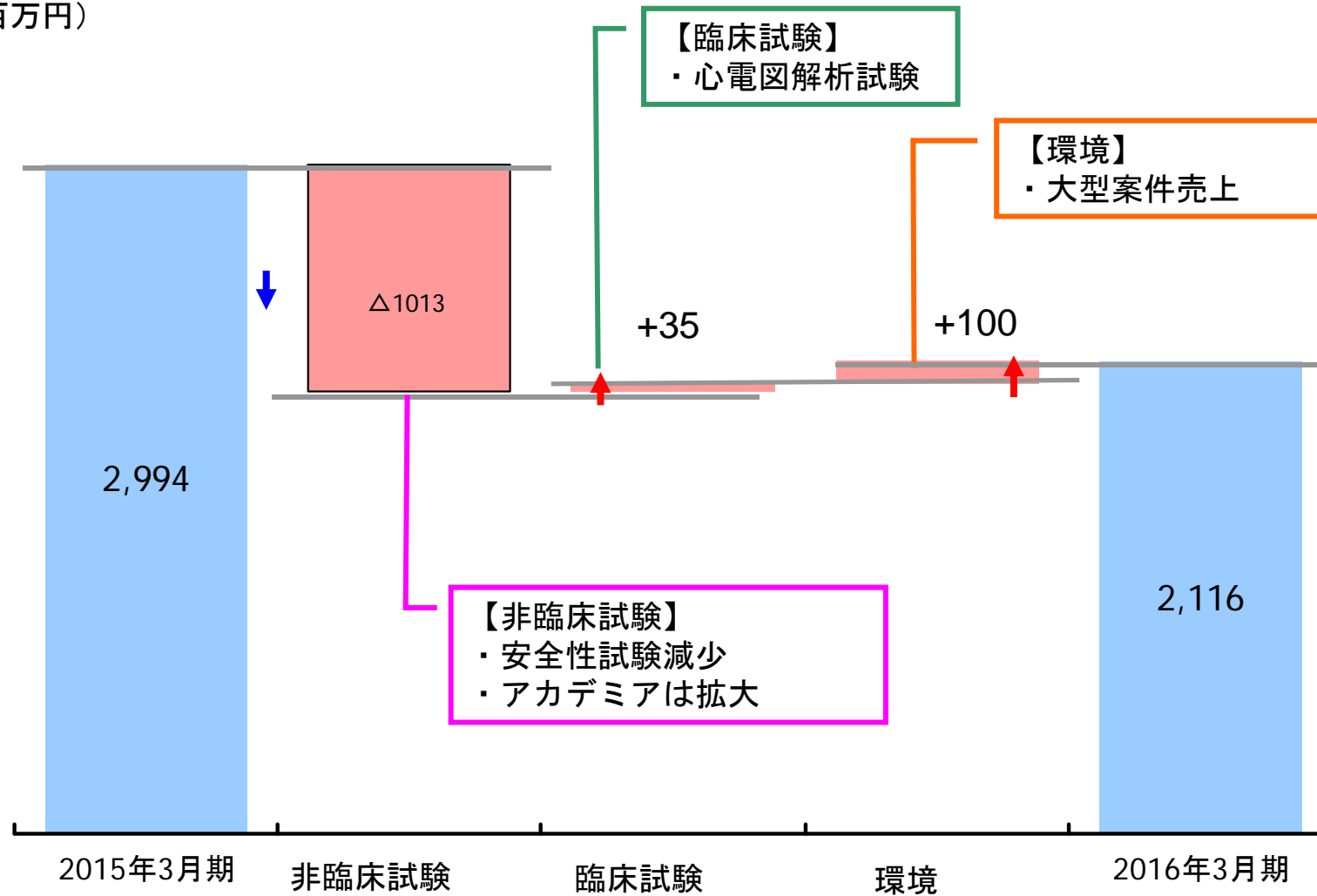
Ina Research Inc.

(単位：百万円)

		前期 2014年4月-2015年3月	2016年3月期 2015年4月-2016年3月	対前期	
				金額	前年同期比
非臨床試験	売上高	2,696	1,683	△1,013	△37.5%
	営業利益	39	△251	△290	—
臨床試験	売上高	114	149	+35	+30.8%
	営業利益	2	24	+21	+800.9%
環境	売上高	183	284	+100	+54.6%
	営業利益	5	19	+14	+274.4%

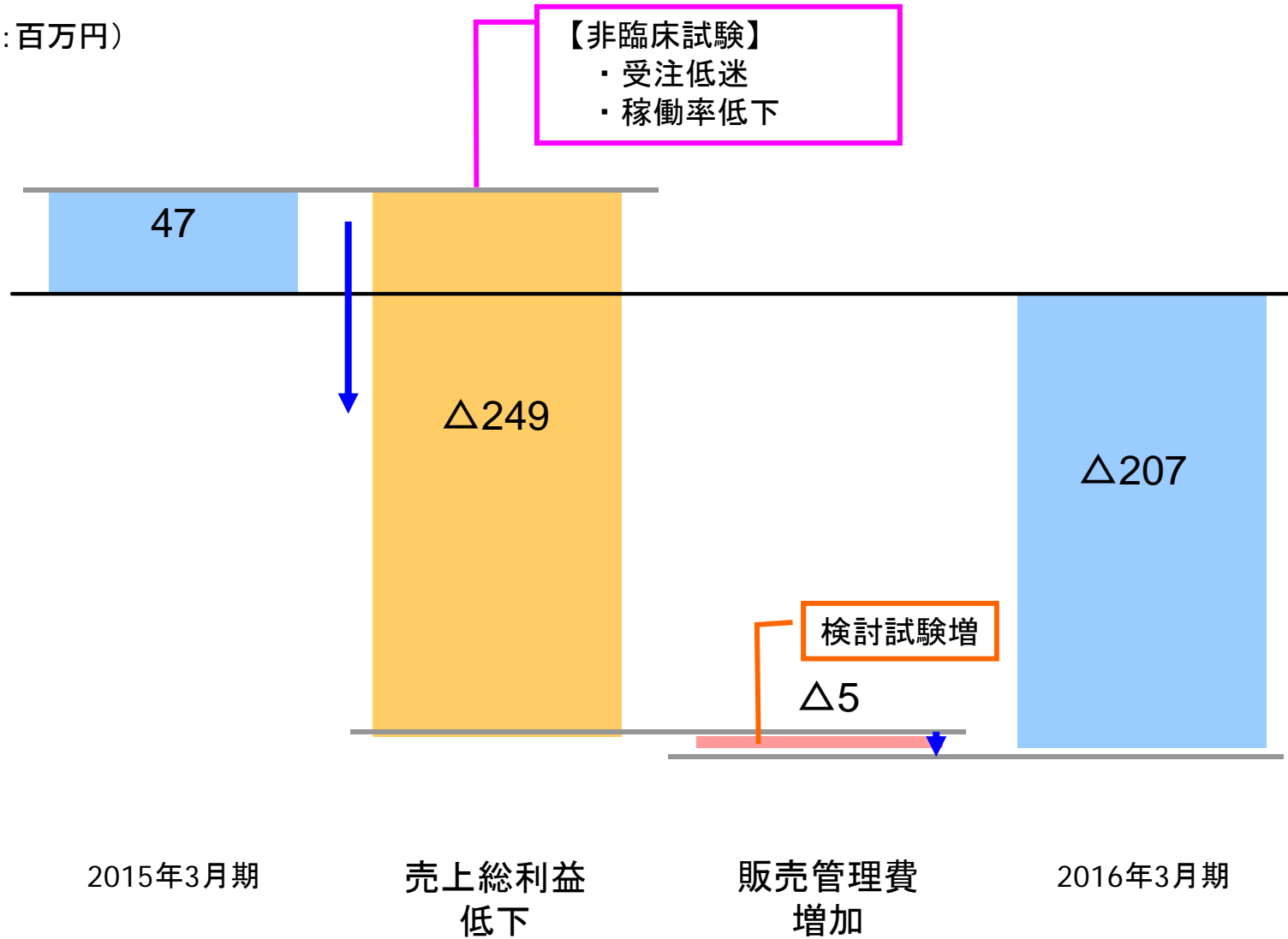
売上高増減内訳

(単位: 百万円)



営業利益増減内訳

(単位: 百万円)



配当・その他指標

配当

(単位：百万円)

2016年3月期・2017年3月期については、無配とさせていただきます。

キャッシュ・フロー

	2015年3月期	2016年3月期	対前期
営業活動によるキャッシュフロー	125	△171	△296
投資活動によるキャッシュフロー	△42	△29	+12
財務活動によるキャッシュフロー	△6	△132	△125

自己資本比率

	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期
自己資本比率 (%) (自己資本／総資産)	41.4	43.2	19.8

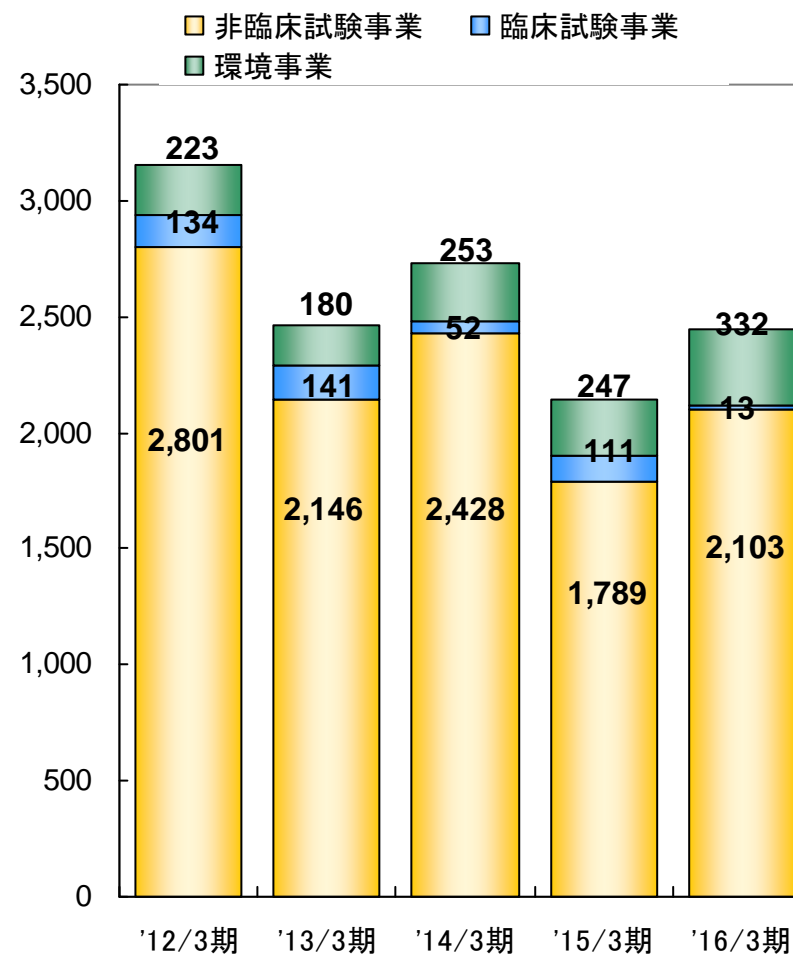
A decorative graphic consisting of a vertical blue bar on the left and a horizontal blue bar extending from the vertical bar across the middle of the slide. The intersection of the two bars is a white square.

2. 受注状況について

受注高と受注高推移

(単位：百万円)

	前期	2016年 3月期	前年 同期比
非臨床 試験	1,789	2,103	117.6%
臨床 試験	111	13	12.1%
環境	247	332	134.2%
合計	2,148	2,449	114.0%



医薬品業界からの受注環境

医薬品業界の現状

- ◆ 製薬会社の業績は総じて好調で、新薬開発における基礎研究への投資意欲も回復しつつある
- ◆ 研究機関の統合、非臨床施設縮小に伴う非臨床試験の外注化の一方で研究施設総体の設備投資は活況を呈しており、非臨床試験事業及び環境事業ともに受注環境が好転している
- ◆ 米国食品医薬品局(FDA)への電子申請化の一環として、非臨床試験における電子データ(SEND)提出が12月より義務化される
- ◆ 新薬の薬価を自由に決められる米国での新薬開発が活発になっており、日本の製薬企業の米FDAへの申請の増加が見込まれている。
- ◆ 国内の製薬会社の収益性重視の姿勢は継続

医薬品業界からの受注環境

再生医療

- ◆ アカデミアを中心に医療への応用の動きが出始めている
- ◆ 難治性疾患や安全性の高い方法から実用化されていくと推察される
- ◆ 企業は上記状況を静観しつつ事業性・収益性の観点から、独自のコンセプトによる再生医療等の製品の開発を進めていくものと思われる
- ◆ 試験需要は徐々に高まっている

今後の動向

- ◆ 医薬品産業への政府投資は若干予算統制が厳しくなっているが引き続き堅調で、製薬企業とアカデミアとの共同研究も更に活性化する



3. 次期（2017年3月期）の計画

2017年3月期 業績予想

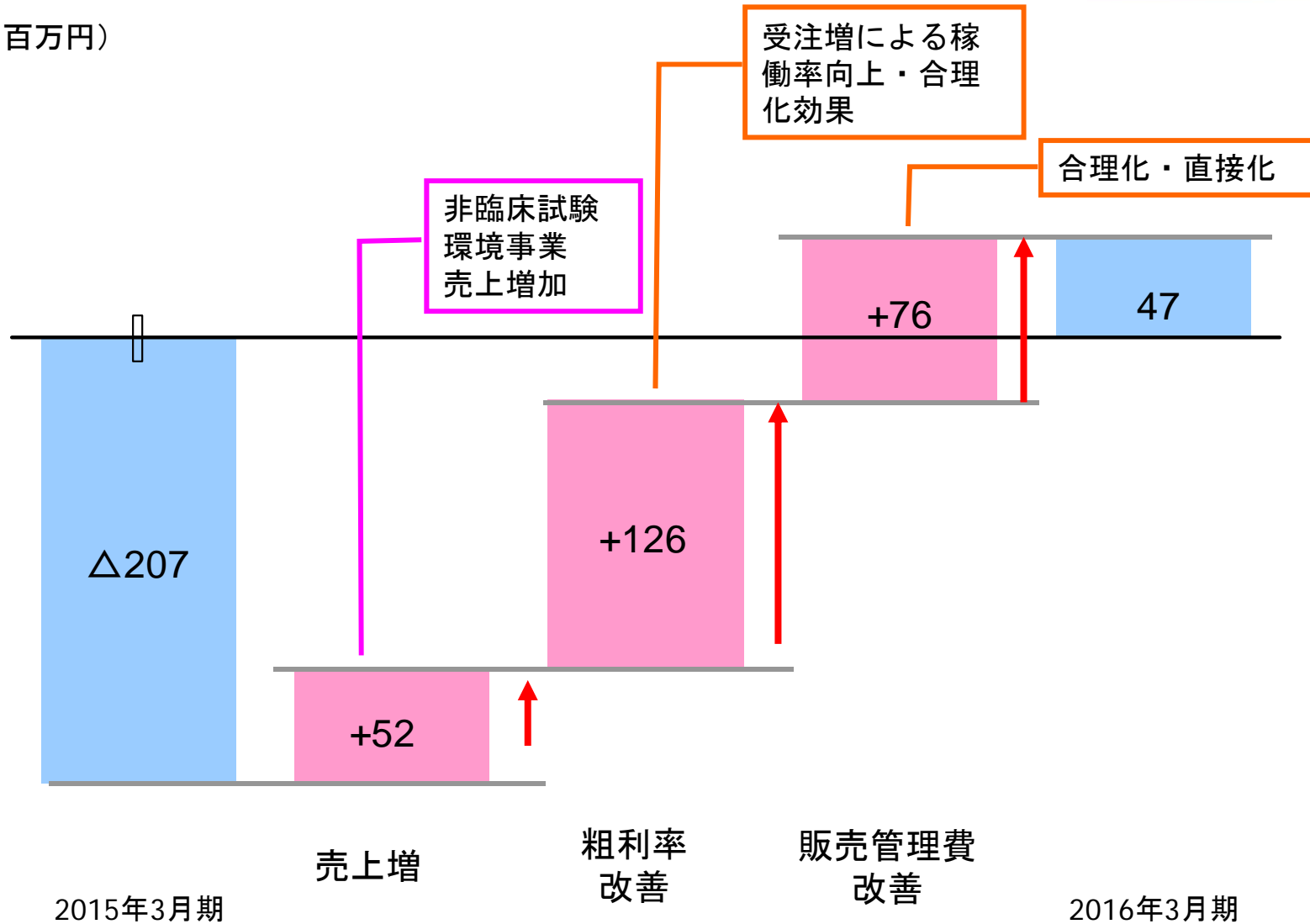
(単位：百万円)

	2016年3月期	2017年3月期	対2016年3月期	
	実績	予想	金額	対前期 増減率
売上高	2,116	2,342	+225	+10.6%
営業利益	△207	47	+255	—
経常利益	△230	9	+239	—
当期純利益	△1,204	0	+1,205	—

2017年3月期の期初受注残高は1,204百万円（対前期333百万円増）

営業利益増減内訳

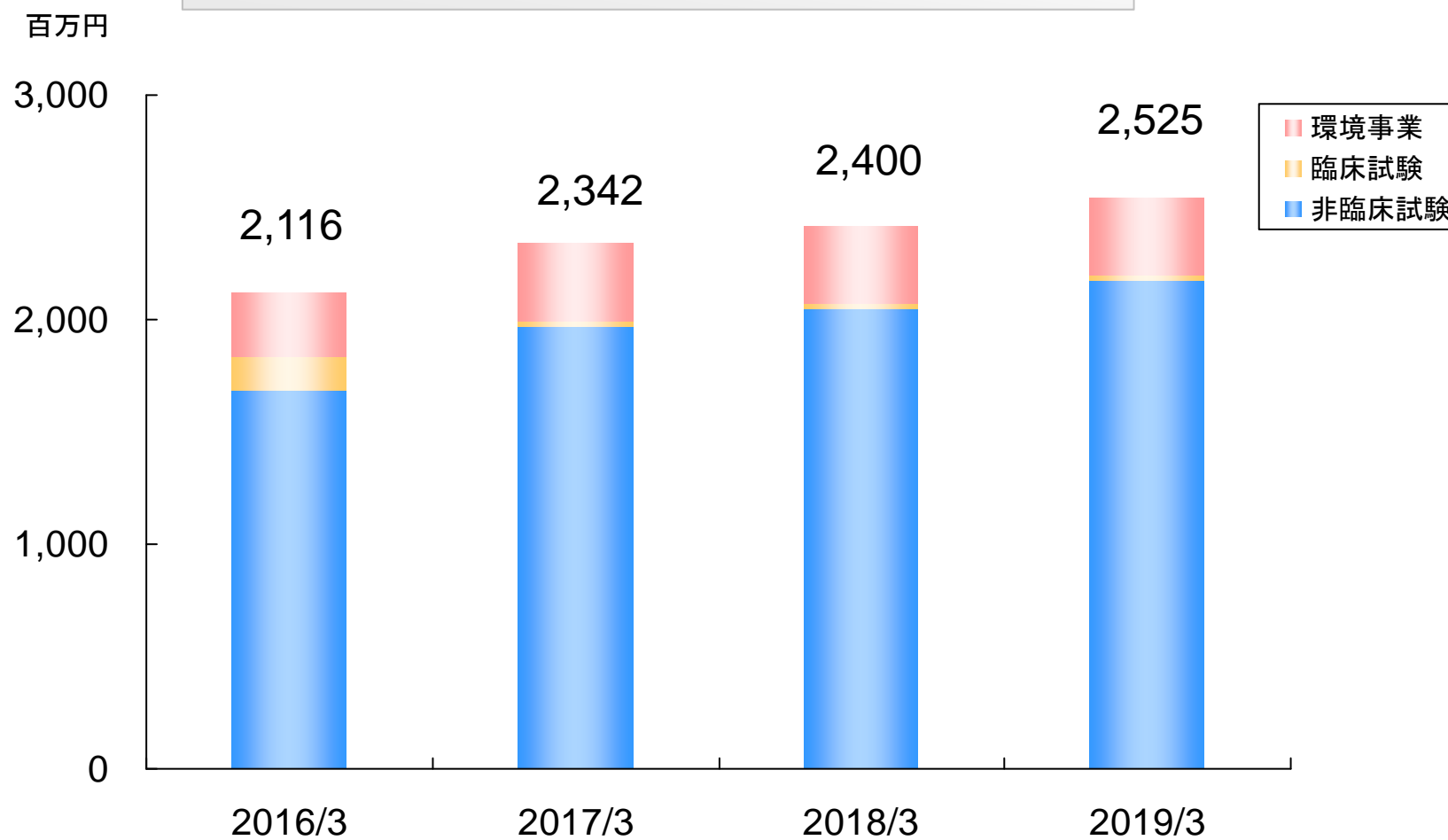
(単位: 百万円)



4. 事業展望と課題の進捗状況

中長期の事業展望

売上目標：25億円（2019年3月期）



非臨床試験事業の展望（1）

SEND対応を武器とした製薬会社からの受託増加

- ◆ FDA申請に必須となる電子申請対応（SEND）により、製薬会社からの受託の更なる拡大を図る。
- ◆ 収益性の高い得意試験の受託体制を強化し、利益率を上げる

iPS細胞関連事業の拡大

- ◆ アカデミアとの共同研究等を通じて、移植免疫寛容型動物の用途開発を加速するとともに安全性試験を充実させ、再生医療やiPS創薬への貢献度を高める。

バイオ医薬品試験の拡大

- ◆ 実験動物中央研究所との連携強化により、核酸医薬品を含むバイオ医薬品向けの試験の動物種・試験種の充実を図る

非臨床試験事業の展望（2）

遺伝子関連事業の受託拡大

- ◆ クラボウの遺伝子解析事業の拡大。創薬に遺伝子解析、遺伝子バイオマーカーを応用する研究を推進する。

試験の動物数を減らす技術を開発

- ◆ 動物倫理面、コスト削減の面から、住化分析センターと共同開発した毒性試験における使用動物数を大幅に減らす技術を改めて受託増加に繋げていく。

アカデミアからの受注増加

- ◆ アカデミアに強いファルマシュプール社及びその他CROとの連携強化を図り、アカデミアへの営業活動を強化する。

海外展開

- ◆ 米国の依存性試験等得意試験の市場に対して、現地に事務所を持つ会社と組みへ参入を図る。
- ◆ 韓国市場への拡販活動を強化する。

1. MHC（移植寛容型）カニクイザルの安定供給に関する研究
（東海大学、滋賀医科大学、慶応大学との共同による
AMED採択事業）⇒4年計画の3年度。利用機関拡大中
2. 信州大学等とのiPS細胞を用いた心不全治療の共同研究
⇒研究成果発表予定
3. 信州大学コンソーシアムでの他機関からの受託開発デーマ
4. 安全性試験へのiPS細胞の応用（業界共同推進）
5. マーモセットを用いた試験種の拡大⇒拡大中
6. 実験動物（小動物）の使用匹数削減に関する研究⇒実用化済
7. 創薬研究への遺伝子応用⇒継続中

環境事業の展望

エンジニアリングの拡大

- ◆ 国の研究支援もあり、老朽研究施設の増改築工事が増えている。エンジニアリング業務を強化し、さらに大型案件の受注を進め、売上・利益を改善する。建築業が活況を呈していることから、競争が緩み、成約率が向上。

インターネットの営業活用

- ◆ 脱臭、除菌専用のホームページを立上げ、ネット営業戦略を実行する事で営業拡大を図っている。

実験機器・機材の輸出を模索

- ◆ バイオテクノロジー研究の比較的盛んなアジア諸国に対する実験機器・機材の輸出販売を行っていく

信州大学先鋭領域融合研究群と 株式会社イナリサーチとの**社会連携協定**

国立大学法人信州大学

- 再生医療研究の推進
- モデル動物を用いた移植医療技術の確立
- 再生医療に携わる人材の育成
- 先端医療の実施
(iPS細胞等幹細胞を用いた疾病治療の臨床応用)



株式会社イナリサーチ

- 新規安全性試験・薬効試験の開発
(iPS細胞等幹細胞を用いた疾病治療の安全性・有効性を確認する非臨床試験系の確立)
- 再生医療に関する研究人脈の拡大
- 医学に精通した人材の育成

目的

再生医療関連技術の開発について、相互に連携し協力することにより、我が国における当該技術の開発に係る共同研究の推進及び当該技術を活用した再生医療の実現に寄与する。

- 1) 信州大学先鋭領域融合研究群バイオメディカル研究所とイナリサーチとの高度な科学技術連携により、iPS細胞等を用いた疾病治療を実用化し再生医療を牽引する。
- 2) 広く研究者を受け入れる社会連携という枠組みにより、信州大の研究者が自由な発想で参画することが可能となり、新たな研究課題の創出が期待できる。
- 3) iPS細胞を用いた移植医療技術の早期確立により、iPS細胞の開発国である日本の優位性をさらに高め、国内企業による再生医療における国内市場の確保と世界市場へ進出に寄与する。
- 4) 第三者（企業・アカデミア）の抱える開発研究課題に関わる研究を請け負う。
- 5) 協力して研究資金等を獲得し、医療の進歩のための研究開発を進め、社会に貢献する。
- 6) 医学研究者と企業研究者が、相互に異分野の科学技術に精通するための教育を行い、協力して知財を創造・活用・保守すると共に、知財教育・人材育成を実践する。



マイクロCTによる測定

連携協議会

評価・管理

- ・ 社会連携活動内容の評価
- ・ 予算/共同研究の進捗の管理

◆ 包括的研究推進等に関する協定書 締結 平成27年12月25日

有効期間：3年間（平成27年12月25日～平成30年12月24日） ※連携協議会の評価に基づき更新可

信州発 バイオメディカルコンソーシアムによる再生医療技術開発の実現

イナリサーチの SEND対応サービス

TranSEND™ (PDS Ltd.) を採用

- SENDデータセット作成
- Study Data Reviewer's Guide作成
- FDAトライアル申請サポート



FDA IND申請時にデータが差し戻されると
余計な時間とコストがかかります

- SEND対応は2016年12月に開始する試験より必須となります。

FDAはリスク対策として
トライアル申請を
強く推奨しています

イナリサーチは国内CROとして初めて
FDAトライアル申請に通過しました※

最終報告書

データセット提出

非臨床試験

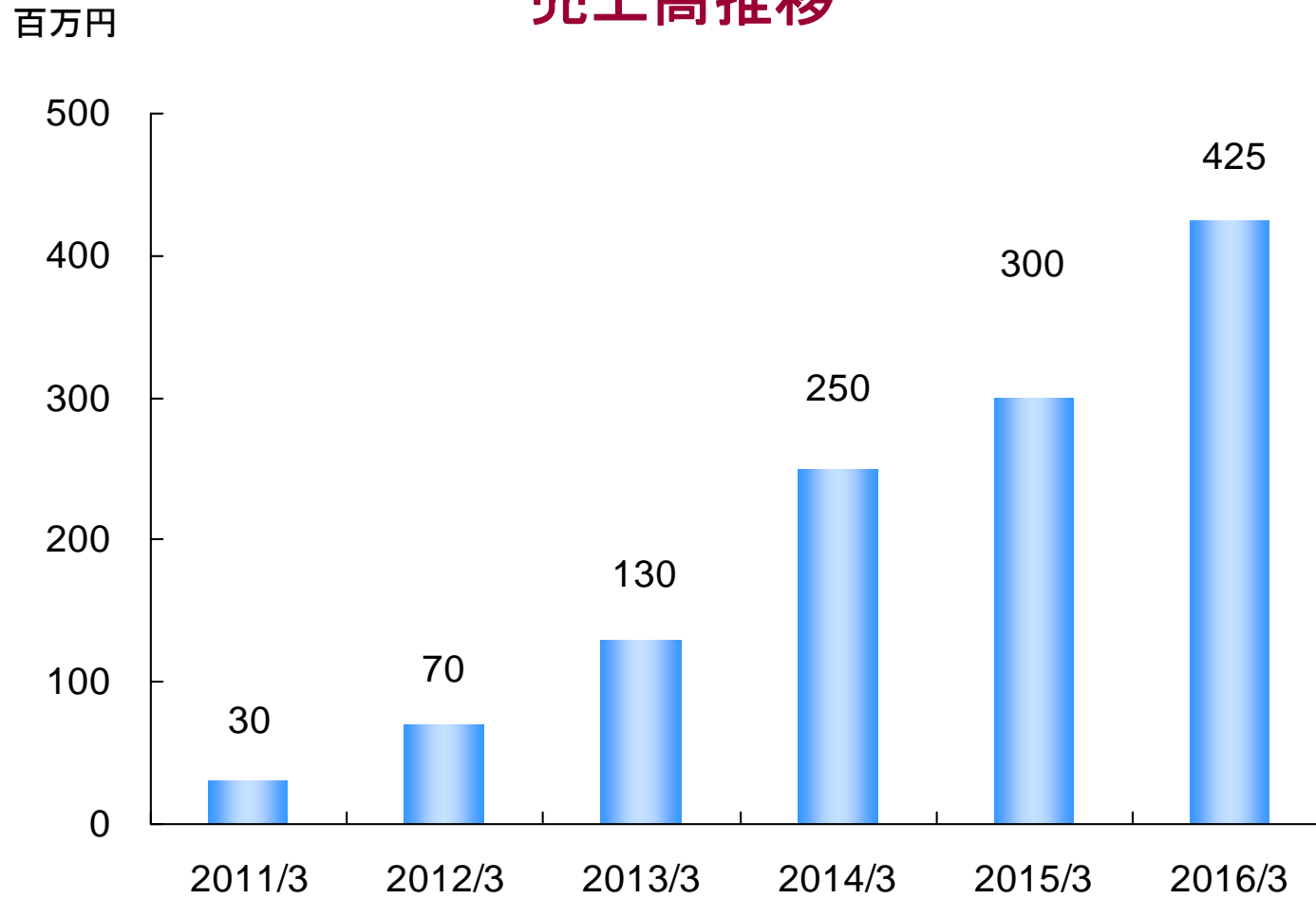
いち早く
INDへ



すべては
お客様のスムーズな申請のために

アカデミア拡販への取り組み

売上高推移



ご清聴ありがとうございました

IR連絡先

本資料に関するお問い合わせ

株式会社イナリサーチ
総務部 IR担当

TEL : 0265-73-6647

医薬品開発のベストパートナー



Ina Research Inc.

<http://www.ina-research.co.jp/>

本資料は、株式会社イナリサーチの事業及び業界動向に加えて、株式会社イナリサーチによる現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。これらの将来の展望に関する表明はさまざまなリスクや不確かさがつきまとっています。既に知られたもしくははまだ知られていないリスク、不確かさ、その他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。株式会社イナリサーチは将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。本資料における将来の展望に関する表明は、2016年5月30日現在において利用可能な情報に基づいて、株式会社イナリサーチにより2016年5月30日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。